



秋の賦

— 幼児教育者の二つの型に就て —

倉 橋 惣 三

春よし、秋よし、いずれをよしというべくもない。またその人によつて好むところあるもおのづからである。撰び定むべくもない。しかも、今や季秋に入る。秋を感じることを繁く、秋をうたうこと多きも亦、おのづからとして許さるべきか。

春が浅いというではないが、秋の味は深みにある。春の月は朧に包む。秋の月は天心に澄む。春の山は霞む。秋の山は聳える。野の花にしても、桜草は普く紅氈を展べ、竜膽は碧落の一片を叢深く潜ましむ。庭の花にしても、ヒヤシンスは甘き香をあたりに漂わせ、菊は馥郁として鼻をついて薫する。華げ来れば限りなく、いずれをすぐれたりともいえないが、春の人、秋の人、おのづから親しむところを異にする。

春のひろやかさに対して、深く凝るところあるは秋である。これを軟といふ硬といふ、また、寛といふ嚴といつては簡単に過ぎる。たゞ、春のどこまでものびやかなのに対して秋はひきしまりを感じしめずにいれない。但し、与うる人の意

識の上のことではない。春の人、秋の人、共にその自然であるが、強いていえば、春の人はひたすら楽しませ、秋の人はひそかに訓ゆるところありといえようか。勿論、その楽しませるうちに訓えがあり、訓えの中に楽しませることを欠かさないが、受く者の方に別はあるであらう。

これらは、保育者の性格に出づるが、年齢の差も関係せずではない。若さは春で春型に傾き、老は秋で秋型に傾くのを免れない。それも亦人生の季の自然である。たゞ、闌春の温風が幼き心を緩弛溶和に誘いすぎ、晩秋の霜気が幼き心を緊張凍結せしめるに至つては、季の異変に属するが、熱せざる稚心への影響については、かげながら忘れてはなるまい。たゞ、一般に貫ばれる保育の春性に対して、同時に秋性の貫きも必要なことは、今が秋だから、そう思われるだけとはいえない。若し仮りに約言するとして、保育の方法は楽しき春型を主とするとして、保育者その人の自ら内に持すべきは、常

に一味の秋型すなわち深みというべきか。内に深みを蔵する人でなくては、たと親しむのみ、敬するところはあり得まい。

——その深みといつても、深刻とか、深遠とか、深沈とかいうものでないことは素よりで、必ず、晴やかな明るさの中にあるもの、柔かな温かさを底に籠めるものでなくては、真に幼児教育者の秋型として快くもなく慕われもしないそれは秋十月の今の季節の快適と魅力とが、現にわれらに教えるところである。春の日の燃える陽炎の如き播曳する温かさとは異つた温さが、秋清爽の涼気の底に籠つていたのである。春の陽光は浴せしむべく、秋の日和は仰がしむべきか。秋型の保育者をたゞ冷い人と評してはならぬ。却つてその温さを性格の深い底にもつ人である。

幼児の今の幸福のためには、春型の人でありたい。幼児の将来に残る感化のためには、秋型の人こそ印銘するところが多いであろう。先生の笑がおは嬉しい。しかも、ふと先生の横顔に見る真面目も、おごそかさも、或は時に、悲しみも亦、それこそ幼児の心に長く思い出されるものかも知れない。日頃は自分と同じように笑い興じて遊びの相手に溶けてゐて下さる先生が、或る日、その美しい眉をひそめて、浮かぬ顔をしていられる。それが、子供達の遊びには、秋の雲の影のようなものを、はびこらせないとも限らないが先生は、『あのね、菊子さんは、きのう病院にいらしたのよ。先生はけさお見舞いして来ました。先生は菊子さんがかわいそう

で、きょうは、いつものように遊べないのを、許して下さいね』といわれる。

又時に、朝早く幼稚園へ来ると先生が一人でお祈りをしていらつしやる。子供も、いつものように、すぐには飛びつかないで、そのお祈りの終るまで、静かにしている。その朝の先生の白い横顔に、いつもの真向きの顔とは別のものを見る。それからまた、次郎さんが、隣の組の小さい子をいじめた、足の悪い子をからかつた。そのとき、先生が次郎さんをお叱りになつて、後庭の方へ連れてゆかれた。先生の顔には弱い子、不具の子のための憤りがきつと表われ、次郎さんをひつばつてゆかれた先生の手はわな／＼とふるえていた。後に残つた幼児達はシンとして声もない。やがて先生は次郎ちゃんを連れてお部屋に帰つていらしたたが、まだしやくり上げてゐる次郎ちゃんを抱くようにしていらした先生の顔は、いつものやさしさに戻つていた。後庭で、先生は何を次郎ちゃんに言われたか誰れも知らないが、その大木の暗い蔭は、子供の想像にも嚴肅な光景として描かれる。そんなことが、次郎へ、そうして組の子へ、どういふ貴い記憶を残すであろうか、——先生は、次郎へ嚴格であつたのではない、自分自身の嚴肅性が、後庭で次郎ちゃんを抱きしめて、涙が流れずにはいられなかつたのである。春型も秋型もわざとしたりつくりごとで出来るものではない。いゝ悪いではなくて、その人なのだ。